

## 妖怪と白杵

白杵市には数々の伝説や怪談、妖怪話が残っています。郷土資料や口承によって残されたこれらの伝承たちは、土地の歴史の一断面を物語った記録とも言えます。また、凝縮した城下での噂話や怪談が色あせずに保存されていることは、歴史の町白杵の特色でもあります。

このマップは白杵の町の楽しみ方のひとつとして妖怪話にスポットを当てました。

昔の人たちは何を怖がったのか、何を不思議に思っていたのか、想像しながら町を歩いてみてください。

## うすきで妖怪と戯れる

城跡に伝わる妖怪や川に潜む河童、闇に隠れる物の怪等々...それは、歴史の物語であり、子どもたちへの教えや悪い事を戒める例え話であり、かつての生活文化を象徴するものなのです。



### 妖怪たちと一緒に出来ること!

- ① 妖怪が住める古い町なみや豊かな自然を未来に残す!
- ② 昔の妖怪話を世代を超えて伝え続け、忘れない!!
- ③ 地元の妖怪を知って、地元に興味を持って地元を好きになる!



**こーとろ**  
暗くなっても家に帰らず遊んでいるこどもがいると、「こーとろ」がやってくる。こどもをどこかに連れ去っていくので遅くまで遊んではいけないという。



**せこ**  
河童は秋彼岸に山に上がり「せこ」になる。音まねが得意でよく人間をだます。しかし、鉄砲の音まねだけはできない。春彼岸になると川にもどり河童になるという。



**津久見島の大蛇**  
大友の時代、白杵城に夜な夜な現われ、家臣の娘の気を奪った若侍。正体は「津久見島の大蛇」。銀の波を立てて島にもどっていったという。



## うすきミワリーツアー

### ① ツアーガイドコース(90分)

白杵市  
観光交流プラザ

稲葉家下屋敷  
又は  
野上弥生子記念館  
又は  
白杵市歴史資料館

### ② ツアー募集人員 20名様/一組 ※ガイド1名つきます。

**③ 拝怪料 500円/1人**  
1. お客様20名様まで、1名のガイドがご案内致します。  
2. 事前予約が必要です。  
白杵市観光交流プラザTEL.0972-63-1715まで

### ④ 開催日は第三日曜日

お問い合わせ

白杵市観光交流プラザ

TEL. 0972-63-1715  
FAX. 0972-64-7117

# うすき ミワリーマップ



距離:2.8km 所要時間:90分 消費カロリー:150kcal

## うすきあるき MAP

戦国時代の町並みが今に残る白杵。古い商家や武家屋敷、路地が入り組む独特の町並みや豊かな自然。そんな身近なところに、実は妖怪や物の怪がひそんでいるといわれるコースです。

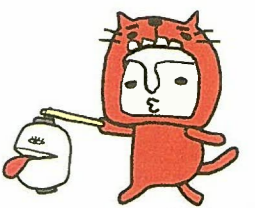


二王座歴史の道



### うすきあるきとは?

マップを片手に自分のペースで好奇心のおもむくままに色々なところで立ち止まりながら白杵の町歩きを楽しめるコースです。



ゆっくり、ゆったり白杵時間



# うすきミワリーマップ

至大分

至フェリー乗り場



**八坂神社**

**旧平井家住宅**

**赤猫の変化**  
(あかねこのへんか)

祇園洲のとある家で赤猫を飼っていたが姿を消した。その家で働いている男がある晩怪物に出会った。刀で斬ると正体は主人の祖母に化けた赤猫だった。『白杵町誌』

**楠の火**  
(くすのきのひ)

昔、白杵城には大きな楠があった。その木の又に赤い火の玉が灯った夜は城下で殺人や窃盗など不吉なことが起きた。第二次大戦中に切られてしまった。話者：藤藤太郎

**白杵城址**

**白杵鐘楼堂の壁**  
(うすきしょうろうどうのかべ)

現在の畳檜の下には多くの死骸が埋められている。そのため何度白く塗り替えても亡霊の祟りで壁は桃色がかり、刀痕も鮮明に浮き出るといふ。『白杵町誌』

**白殿**(しろどの)

白杵城に稲荷様の眷属の白狐がいた。一度追い出されたが、殿様が江戸詰めの際に大火にあったところを助けたため城内に迎えられた。『増補豊後傳説集全』『大分の伝説』

**がもじい**

浜町の蔵の中に現れた化け物。こどもは一人で蔵の中で遊んではいけないという。

**野衾**(のぶすま)

年経た動物をコッチユと呼ぶ。野衾はコウモリのコッチユで堀川の土手にある松の木立の間を飛び回って人々を驚かしたが、鉄砲の名人に退治された。話者：藤藤太郎

**火の玉を食べた男**  
(ひのたまをたべたおとこ)

火の玉を食べて以来、夜目が利くようになった下働きの男。勤め先を辞めさせられ泥棒になったが、捕まって佐志生で打ち首になった。話者：甲斐一平

**白杵歴史資料館**

**路地の狸**  
(ろじのたぬき)

畳屋町の銀丁の角から見星寺への路地に狸が出る。ここを通る人が裾をからけて通るのは狸に化かされて路地が川になるからである。『うすきの花びら』34「道(3)」

**亀城**(きじょう)

白杵城は亀の形に似ていたので亀城と名付けられていた。敵が攻めると沖へ遠ざかった。亀の首を切つて以来動かなくなったという。『西遊雑記』『増補豊後傳説集全』

**龍馬**(りゅうま)

大橋寺の裏のダイケ淵には地獄に通じる穴があった。そこには龍馬という化け物が住んでいて、淵で泳ぐ子どもを引きずりこんだという。

**河伯**(かっば)

海添芦掘に屋敷を持つ人の妻が廁で尻を撫でられる。勇気ある妻で尻を撫でる手を剣で切り取ると河伯の腕。河伯に手を返すかわりに妙薬を教える。『桜翁雑録』

**小豆洗い**  
(あずきあらい)

浜町や平清水などで井戸や家の間から「ジョキシヨキ」と音がする。これは小豆洗いの仕業。「もうねらんか もう夜はふけたぜよ」と声が聞こえる。

**馬の首**  
(うまのくび)

戦死した主人の手紙を愛馬が切通しにある家に届けた。しかし、主人を見捨てたと思われて首を刎ねられた。それ以来雨がそほ降る夜に白馬の首が出る。『白杵町誌』

**三本脚の雉**  
(さんぽんあしのき)

原山の竹藪には三本脚の雉がいるという話がある。『うすきの花びら』34「道(3)」

**旧丸毛家住宅**

平清水

至10号線